ご当地自慢

付知峡西股谷編

15

東濃森林管理署

岐阜県中津川市北部の長野県境付近に端を発する付知川の上流部は「付知（つけち）峡」と呼ばれ、左に西股谷、右に東股谷と分かれています。この付知峡は、別名「青川」とも呼ばれる渓流と、新緑・紅葉が美しい自然に恵まれ、「森林浴の森日本一〇〇選」「岐阜県の名水五〇選」「飛騨・美濃紅葉三十三選」に選ばれています。今回は、四季折々の楽しみ方ができる西股谷を紹介します。

■勇壮な滝【高樽の滝】

標高八八〇㍍にある「高樽の滝」は、裏木曽の深山から西股谷に落下する落差二一㍍の滝です。森の静けさを打ち破るかのように、ごう音をたてながら勢いよく落下する様はとても勇壮な滝です。滝名は高樽山（標高一、六七二㍍）が水源であることから付けられたようです。滝の上部への立ち入りは危険なため制限されていますが、昔は、豊富な水量をいかして子供たちが滑り台のように水遊びしていたそうです。現在は、森林鉄道で使われていた木橋の上から間近にその姿を楽しむことができます。

高樽の滝

■秘湯の一軒宿【渡合温泉】

付知川の最上流部にひっそりとたたずむ秘湯の一軒宿です。ここには、電気が来ていません。夜はランプの火を灯すことから「ランプの宿」と呼ばれています。

源泉は明治初期に西股谷の谷筋で発見されました。泉質は、アルカリ炭酸泉で胃腸病やリュウマチに効果があるといわれています。冬季は雪が深く営業は四月から十二月までとなっています。川魚や山菜を使った郷土料理が自慢です。

渡合温泉

■御嶽山を望む【高時山】

付知川の源流に位置する山で、「ランプの宿」渡合温泉から、江戸時代に御嶽山に向かう登山道として使われた「木曽越古道」を利用して登ることができます。

この「木曽越古道」は、岐阜県の加子母と長野県の王滝を結び、その歴史は今から九百年ほど前まで遡ります。当時は、御嶽講の行者や信者が頻繁に往来していたそうです。加子母から白巣峠までの間には観音様を刻んだ三十三体の石仏が奉られていました。その途中にある木曽越峠では、ほお杖姿の二体の石仏が、今でも登山者の安全を見守っています。

木曽越峠から、国有林の境界尾根を進めば山頂に到着します。渡合温泉から、約四時間ほどです。高時山の標高は、一、五六三㍍で、山頂からは正面に白巣峠越しに雄大な御嶽山が、御嶽山の左には小秀山、右には夕森山、奥三界山などの裏木曽の山々が望めます。

木曽越峠の石仏

高時山から御嶽山を望む（中央は白巣峠）

◆アクセス（渡合温泉まで）

［公共交通機関］

ＪＲ中央本線中津川駅下車、北恵那交通バス「付知峡・倉屋温泉行」約五十分「付知峡倉屋温泉」から徒歩約三時間「渡合温泉」

［自家用車］

中央自動車道中津川ＩＣ～国道二五七号・二五六号を下呂方面へ「付知峡口」交差点～約四十分～渡合温泉